

馬渡の眼 3

公平と不公平

馬渡 徳子

間もなく、おそらく戦後日本の義務教育史上、最短期間の夏休みが、終わろうとしている。

県内では、クーラー全教室配置の自治体の小中学校は、夏休みを二週間から三週間程度にして、既に、二学期が始まっている。ということは、『給食も、始まっている』ということ。

ひよんなことから、孫の住む自治体には、小中学校のクーラー設置が、半数しか実施されておらず、また、全ての教室に実現していない学校もあることを、知るところとなった。

第 39 号で、ご紹介したヨシタケシンスケさんの絵本『それしかないわけ

ないでしょう』の付録に、小学校一年生の孫が、こう書いた。

↓

「がっこうに、クーラーがはんぶんしかついてないから、ぜんぶつかわないで、せんぷうきだけって、それはないでしょう」

→〇〇しても、いいじゃない!

「いちねんせいから、ろくねんせいまで、まいにち、きょうしつをじゅんぱんこにして、『クーラーのひ』と『シャワーのひ』を、つくればいいじゃない」

↓

「ほんとやね。ばあばは、市長さんに要望することしか、思いつかんかった

わ。学校には、プールがあるから、シャワーもできるね。クーラーのある教室とない教室と、毎日いろんな教室行けたら、探検みたいで、面白そうやね。ワクワクするねえ。」

と、私は応えた。

↓

「ばあば。『公平って、みんなで、我慢することなん？ 不公平って、工夫できない大人がつくるものなんじゃないか』と思った。先生に、『みんなで、我慢しましょうね』と言われたけど、何かおかしいと思う。」

と、孫が続けた。

↓

「なるほど。もし、『みんなで、知恵を出し合ってみましょう』やったら、大人には思いつかない工夫が、いっぱい出てきて、先生は、びっくりするかもね。そして、先生が他の先生とも相談して、今より気持ちよく学校に行けるようになったらいいね。」

と、私は応えた。

↓

「良い機会やな」と思ったので、岩川直樹(文)木原千春(絵)(2000)『人権の絵本①じぶんを大切に、②ちがいを豊かさに』大月書店を、孫と一緒に読んだ。

「要は、『ヨシタケシンスケさんの絵本と同じことを伝えたい』んやね。『たいへんなみらいしか、ないわけないでしょう』と、同じやね。」

と、孫は応えた。

↓

さて、今年も下半期に、「人権教育講話」として、県内の小中高校や、多様な職場を回る活動が始まる。

生涯学習課、教育委員会の担当者さんと、日程調整や多様な実施方法の検討をしながら、こんな話をされた方がいた。「改めて、コロナ禍は、私たち一人ひとりに、『自分自身の人権意識を問い、日常の言行動をふりかえり、行動変容をする貴重な機会』とも、なりましたね。」

深層に触れる言葉を戴き、私は、姿勢を正した。